

文京区アカデミー推進計画策定協議会

第4回 国際分科会 次第

日時：平成22年8月2日（月）18:30～20:30

於：文京シビックセンター21階 2101会議室

- 1 開会
- 2 はじめに
- 3 体系づくりに向けた項目（案）の検討
- 4 事業（案）の検討
- 5 骨子（案）の検討
- 6 閉会

《配布資料》

【資料国際－第9号】体系づくりに向けた項目（案）

【資料国際－第10号】事業（案）とりまとめ資料

【資料国際－第11号】分野別計画骨子（案）

体系づくりに向けた項目(案)

(視点)	分野別の目標	基本的な方向
交流のきっかけを持つ、互いの文化について学ぶ	1 国際理解を進める機会づくり	(1) 国際理解の推進
		(2) 多様な文化を学べる機会の充実
異なる文化的背景を持つ区民同士が互いに触れ合い、理解し合う	2 国際交流を進める機会づくり	(1) 交流の機会の拡充
		(2) 交流を支える人材の支援及び育成
		(3) 交流拠点の充実
		(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化
外国人が安心して暮らせ、ともに地域に参画する	3 外国人も快適に暮らせる環境づくり	(1) 外国人の暮らしの支援
		(2) 地域活動への参加促進

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
1	国際理解を進める機会づくり		
	(1)国際理解の推進		
		○□小中学校における国際理解教育	全小中学校の全学年に英語授業助手を派遣し、児童・生徒を対象とした国際理解教育を推進する。コミュニケーション能力の育成や様々な文化への理解を図る。
		●区民による海外体験・情報交換会	区民が海外で見聞きしたことを意見交換する。地域によるテーマを設定し、当該地域出身の外国人を招いて交流を行う。
		□国際理解に向けた啓発	区民の国際理解を推進する目的で、国や都などと連携して、各種広報・イベント活動を行う。
	(2)多様な文化を学べる機会の充実		
		○国際理解を推進する講座の企画・開催	衣食住に関する伝統文化や音楽など、外国人講師等により、区民が世界の国々を理解するための講座を行う。
		○大学と連携した講座の企画・開催	区内の大学と連携し、外国人研究者等による講座を行う。
		●区内産業と連携した交流・ネットワークづくり	区内企業の先端技術を外国人が見学できるコースを企業との連携で新設するなど、世界的な先端技術を有する区内事業者のネットワークを構築する。外国人と区民が技術を見て、知って、学ぶ事業を行う。
		●日本と外国を学ぶ講座の開催	財団法人アカデミー文京による講座の開催、日本や各国の文化・歴史、料理など親しみやすい分野を集中的に実施
		●(仮)パートナーシップによる語学アカデミーの開催	区内大学の研究者や留学生による語学教室を開催
2	国際交流を進める機会づくり		
	(1)交流の機会の拡充		
		○●国際交流団体への支援	区内で活動している国際交流団体への情報提供や、交流の機会づくり等の支援等を行う。
		○国際交流フェスタの開催	外国人と日本人の文化を通じた友好交流と相互理解の推進を進める。参加者が様々な文化を体験し、楽しむことを目指す
		●留学生フェスタの開催	区内大学の留学生センターを拠点として、地図コンテストや学校施設、福祉施設などで各国の状況を語りあうイベント等、留学生や学生主体で交流事業を行う。
		●国別フェスティバルの開催	特定の国・地域をテーマにしたお祭りを行う。
		●大学対抗コンテスト	留学生と日本人学生がチームをつくり、まちあるきや歴史文化資源等をテーマにして大学対抗コンテストを行う。
		□留学生と家庭の交流・ふれあい促進	留学生による家庭訪問に協力してくれる家庭を募集し、留学生が日本の生活様式などに触れ合う機会を提供する。
		●スポーツ、料理等を通じた交流促進	中学校校庭、教室を利用して開催
	(2)交流を支える人材の支援及び育成		
		○●国際交流サポーターの育成と推進	区等が実施する人材育成事業を修了した「地域文化インタープリター」や「英語観光ボランティア」をはじめ、区民を国際交流サポーターとして育成し、様々な事業に活用する。また、区内大学で、インタープリターなど既存人材が高度な知見を習得するための認定者制度を新設する。

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		●文の京国際交流ネットワークづくり	インタープリター、外国人ネットワーク等を対象に、インターネットを活用したネットワーク作りを推進する。
		●国際交流の次世代育成(「文の京伝達人ジュニアの育成」)	将来の人材育成を目的として、区内の中学生と、日本に在住する外国人中学生との交流会を実施する。日本文化の紹介、体験や区内大学の見学を行う。
		○外国人の人材活用	在住期間が長い外国人住民による、新しく区に来た外国人住民の活動の担い手として活躍頂けるように支援する。
	(3)交流拠点の整備		
		●交流拠点の整備	国際交流の拠点として、国際関係団体のまとめ役となり、姉妹都市交流および情報収集や発信を行う。また、国際交流サポーター等が必要とされる場所や、機会に関する情報を一元的にまとめ、サポーター等の活動の機会を拡充する
		●国際交流団体の設立・育成	区民、各種団体、区内企業等からなる任意団体を設立し、国際交流の窓口を担う。
	(4)姉妹都市等、海外都市との交流の活性化		
		○姉妹都市との市民交流活動の推進	区が企画する区民のヨーロッパ旅行の立ち寄り先の一つとして、カイザースラウテルン市を設定し、市民との交流の場を設けるなど、新たなプログラムの検討を行う。
		○姉妹都市とのホームステイ生徒交換	現行のホームステイ生徒交換事業の受入れ手法の柔軟化など、持続可能な制度の検討を行う。
		○●新たな海外都市との交流	中国や韓国など、アジア諸国の都市との交流を進める。交流手法として、文化やスポーツ等による市民交流を行うことを目的とする。
		●多文化都市との姉妹都市協定	区の若者と多文化都市の若者との交流を行い、国際交流の水準引き上げを目指す。
		□海外都市からの視察団受入れ促進	海外都市からの視察団を積極的に受入れ、文京区を世界に向けてアピールする。
		●今年は〇〇年！事業の企画・実施	区民にとって関心の高い分野(子育てや福祉など)で、先進的な取組みをしている海外都市と提携し、物産展など区民が参加しやすい事業などを短い期間で実施する。区内在住の対象国出身者とも連携して行う。
3	外国人も快適に暮らせる環境づくり		
	(1)外国人の暮らしの支援		
		○外国語による生活情報誌の発行	外国語版生活便利帳の発行(4カ国語併記 日本語・英語・ハングル・中国語)
		○CATVによる情報提供	CATVによる生涯学習、スポーツ振興、文化芸術、観光、国際関連情報の提供
		○□ホームページによる情報提供	ASPサービスを利用し、英語・中国語・ハングルの3か国語に翻訳して、区政、区民サービス等の情報提供する。また、区のホームページに掲載する生活情報を携帯電話でもアクセスできるようにし、利便性向上を図る。
		○●各種標識の多言語表示の推進	道路標識、避難所標識、飲食店向け外国人客向けメニューの多言語表示、指さしメニュー等
		○医療、国民健康保険に関する情報の多言語表示の推進	医療機関窓口での多言語マニュアル、問診票等の配付、医療・福祉の専門的知識を持った通訳ボランティアの受入を推進する。また、母子手帳、乳幼児健診、予防接種、国民健康保険等のパンフレットを作成する。

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		● □教育に関する相談支援	子育て・教育に関する情報提供、相談、母語を用いた学習支援を行う。
		○外国人相談体制の充実	外国語の相談員による生活相談。入国・在留・くらし一般等の相談。
		●外国人登録窓口を利用した情報提供サービス	在住外国人が必ず訪れる外国人登録窓口において、多言語による情報提供を行う。
		□外国語ボランティアの育成・派遣	区民及び在住外国人による語学ボランティア。公的機関からの派遣依頼に基づき、通訳・翻訳等を行う。
		○小中学校における日本語指導員の派遣	日本語指導が必要な児童・生徒に母国語の日本語指導員を派遣する。
	(2)地域活動への参加促進		
		●地域活動センターの活用	地域活動センターを拠点とし、区民や外国人が、町会や青少年委員等と連携して国際交流事業を行う。
		●暮らし支援バザーの開催	在住外国人の参加によるバザーを行い、情報提供をあわせて行う。
		●外国人地域活動の推進	学校と連携し、子どもを通じて外国人世帯に自治会への参加や、地域の祭り、運動会などの参加を促す。
		●企業の外国人社員、日本人社員、地域との交流促進	地域への関心を高め、地域活動への参画のきっかけとなるよう、区内企業の社員と地域住民との交流の機会を提供する
		□町会・自治会等への参加促進ビデオ・DVDの作成	町会・自治会への参加呼びかけ、参加方法等を多言語で説明した映像の作成

分野別計画骨子（案）

I 国際交流

1 国際理解を進める機会づくり

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、小中学校の児童、生徒を対象とした取組みとして、総合的な学習の時間の活動などにおいて、国際社会のしくみや異文化を学ぶための国際理解教育を行っています。また、全小中学校の全学年にAET（英語授業助手）を派遣し、小学校では英語を用いたコミュニケーション能力の向上を図り、中学校では英語運用能力の向上を図っています。

区民を対象とした取組みとして、英語観光ボランティア育成講座、区内の大学との連携による青少年の外国語講座等を実施し、区民が国際理解を深められるよう、様々な学習機会を提供しています。

調査結果では、これまでに外国へ行ったことが「ある」と回答した区民の割合は78.7%で、回答者の大半が海外経験を持っていることがわかります。

多くの区民が外国と触れ合う機会や経験を持つ今日、小・中学校での国際理解教育や、各種の講座のさらなる充実を通じて、区民全体が国際理解を深め、国際社会の一員として世界に向けて開き、外国人を受け入れる意識を共有していくことが求められます。

◆ 課題

- ① 国際理解に関する各種の講座を、対象とする区民（児童・生徒・学生・社会人等）やテーマ、目標を明確にし、効果的に実施していくことが求められます。
- ② 区内の大学の人材や施設を活用しながら国際交流に関する講座を実施するなど、大学や事業者、NPO（非営利活動法人）等と協働していくことが求められます。
- ③ 外国人に区の歴史や文化を理解してもらうため、区内の名所・旧跡をはじめ、歴史・文化資源等を伝えていくことが求められます。

【基本的な方向】

(1) 国際理解の推進

- ・ 外国人や海外経験の豊富な区民を活用するなどの方法により、区民の国際理解を深める機会を提供し、外国人を受け入れる意識の醸成を図ります。
- ・ 海外経験を持つ区民が学生等に経験を伝えられる機会を設けるなど、区内の人材の橋渡しを行政が支援し、区ならではの国際交流の場を設けます。

(2) 多様な文化を学べる機会の充実

- ・ 区内の大学の外国人研究者等を講師とする講座の実施などを通じ、国際理解の学びの質を向上させていきます。
- ・ 日本の歴史や文化、先端技術等に関心を持つ外国人に対し、区の様々な歴史・文化資源の価値や魅力を区民の視点から伝えていくことを目指します。

期待される効果

期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

2 国際交流を進める機会づくり

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、区民と外国人との交流を深めて相互理解を進めるため、市民レベルの文化交流を目的とする「国際交流フェスタ」や外国人の観光案内を目的とする「英語ガイドツアー」など、様々な国際交流事業を実施しています。

海外都市との交流として、ドイツのカイザースラウテルン市と姉妹都市提携を結び、ホームステイ生徒交換や市民の相互訪問など、市民レベルでの交流を行っています。さらに、日本と地理的に近い中国や韓国などのアジア諸国の都市との交流も進められています。

その一方で、区民にとって、どのような活動が行われているのか、どのように参加したらよいかの伝わりにくく、具体的な活動に結びつけにくいという問題が指摘されています。区民を主体とした国際交流を活性化させるためには、情報の発信を充実させるとともに、区内の学校や大学等などとの連携を進め、国際交流の機会を増やしていくことが望まれます。

◆ 課題

- ① 国際交流の活動をしたいと考えているものの、方法がわからないという区民や外国人のために、交流のきっかけとなる情報や機会を提供していくことが求められます。
- ② 国際交流交流を担う人材として、国際交流に関心を持つ区民を支援することが求められます。
- ③ 国際交流に関する事業を区民が主体的に進めるため、国際交流を行っている区内のボランティア、NPO（非営利活動法人）、大学、事業者等のネットワークをつくることが求められます。
- ④ 国際交流事業を単年度だけではなく、継続的に行う仕組みをつくることが求められます。
- ⑤ 区民と外国人とがともに気軽に利用でき、集うことができるスペースを設けることが求められます。
- ⑥ 交流開始以来 28 年になるカイザースラウテルン市との交流を一層推進するため、区民に姉妹都市交流の内容を広く知らせ、参加を図ることが求められます。
- ⑦ 海外都市との市民交流について、日本と地理的に近く、行き来が比較的容易な海外都市との市民交流を進めることが求められます。

【基本的な方向】

(1) 交流の機会の拡充

- ・ 国際交流に関する情報を収集して管理し、区民に広く発信する方法を検討します。
- ・ 国際交流に関するボランティア、NPO（非営利活動法人）、大学、事業者等のネットワーク化の推進を図ります。
- ・ 国際交流に関する活動団体の連携推進を支援し、情報や人材を相互に交換するなど、活動団体同士の交流の機会の充実を図ります。
- ・ 区民が主体的に継続性のある国際交流事業を行うことができるよう、行政が支援する仕組みを検討します。

(2) 交流を支える人材の支援及び育成

- ・ 区の歴史や文化を外国人に伝える人材として、各種の講座を受けた区民が主体的に活躍できる仕組みを検討します。さらに、国際交流を担う次代の人材として、小・中・高校生を育成する仕組みを検討します。
- ・ 留学生や研究者などの外国人が、国際交流を担う人材として活躍できる仕組みを検討します。

(3) 交流拠点の整備

- ・ 区民も外国人も気軽に集い、国際交流を進められるスペースとして、既存施設を活用するなど、拠点を整備することを検討します。
- ・ 国際交流事業の実施にあたり、事業者の施設を利用させてもらうなど、事業者との協働を図ります。

(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化

- ・ カイザースラウテルン市との市民交流について、区民の認知をさらに広めるための新たな手法の導入を検討します。
- ・ 交流が深まりつつある海外都市との市民交流について、交流を活性化する手法を検討します。
- ・ 海外都市との交流について、区民が関心の高い分野で先進的な取り組みをしている都市との交流を検討します。

期待される効果

期待される効果を2つ程度挙げる（ただし、第4回分科会以降）。

- ・ ●●●●

3 外国人も快適に暮らせる環境づくり

【現状と課題】

◆ 現状

区民と外国人が暮らす環境について、調査では、地域の外国人と「付き合いはない」とする区民の割合が50.4%となっています。一方、日常生活において多少なりとも外国人との交流がある区民の割合は、29.8%となっています。また、地域に外国人が住むことについては、「異文化交流が活発になる」など肯定的な回答は合わせて41.6%となっています。特に日常生活において外国人との交流がある区民が、外国人が住むことについて肯定的であるという結果が見られます。

区民と外国人とがともに暮らすために、どのような取組みが必要かという設問に対しては、「日本人と外国人の懇談会や交流の場を設ける」が44.3%と最も高く、次いで、「外国人向けの日本の文化や生活習慣の講座を開催する」が44.1%、「外国人への公的な相談体制や生活支援を充実する」が27.1%となっています。

地域に外国人観光客が訪れることについては、「異文化交流が活発になる」など合わせると、回答者の57.3%が積極的な捉え方をしています。

調査結果からは、区民と外国人とが地域で触れ合い、ともに暮らすことに肯定的な回答者が半数近くいることがわかります。

本区では、外国人登録者等に対して、外国語版生活便利帳（日本語・英語・ハングル・中国語）を配付し、生活のために役立ててもらおうこととしています。また、医療や国民健康保険、保育、防災、観光等の分野で多言語による情報提供を行っています。日本語指導を必要とする小・中学校の外国籍児童・生徒に対しては、母国語の日本語指導員の派遣を行っています。生活や法律に関する相談窓口として、英語と中国語による外国人相談業務を行っています。

今後は、さらに外国人が快適に暮らせる環境づくりに取組むとともに、外国人も地域社会の一員として地域活動に参加し、地域を活性化する役割を担うことが期待されています。

◆ 課題

- ① 外国人が大きな困難を感じずに日常生活をおくることができるよう、生活に関する情報の多言語対応を進めることが求められます。
- ② 外国人の日常生活の困りごとや公共サービスの内容について気軽に相談できる窓口や支援体制の充実させることが求められます。
- ③ 外国人が病気や怪我をした時や災害時等に、多言語での支援を行うことが求められます。
- ④ 区内の学校に通う外国籍児童・生徒等への日本語支援の充実させることが求められます。
- ⑤ 地域で区民と交流したい、表現活動を行いたいと考えている外国人に対して、機会を提供し、区民とともに活動に参加できる仕組みをつくることが求められます。

【基本的な方向】

(1) 外国人の暮らしの支援

- ・ インターネットを通じた生活情報や観光情報、標識・看板の表示、店舗でのメニューなど、情報の多言語化をさらに推進します。
- ・ 病気や災害時に外国人に支援を行う言語ボランティアを育成するなど、外国人が安心して生活するための仕組みを検討します。
- ・ 外国籍児童・生徒への日本語支援に加え、学校に関する書類の翻訳など、外国籍児童・生徒の家族への支援の仕組みを検討します。

(2) 地域活動への参加促進

- ・ 地域活動に関する情報について、多言語による発信を推進します。
- ・ 町会・自治会などの地域行事について、外国人が参加しやすい仕組みづくりを図ります。
- ・ 外国人が地域活動へ参加することを支援する区民の育成を図ります。

期待される効果 期待される効果を2つ程度挙げる(ただし、第4回分科会以降)。

- ・ ●●●●

【事業例】※事業例は第4回分科会以降に決定

事業名	概要	取組み主体